

# チーム経営研究会報告

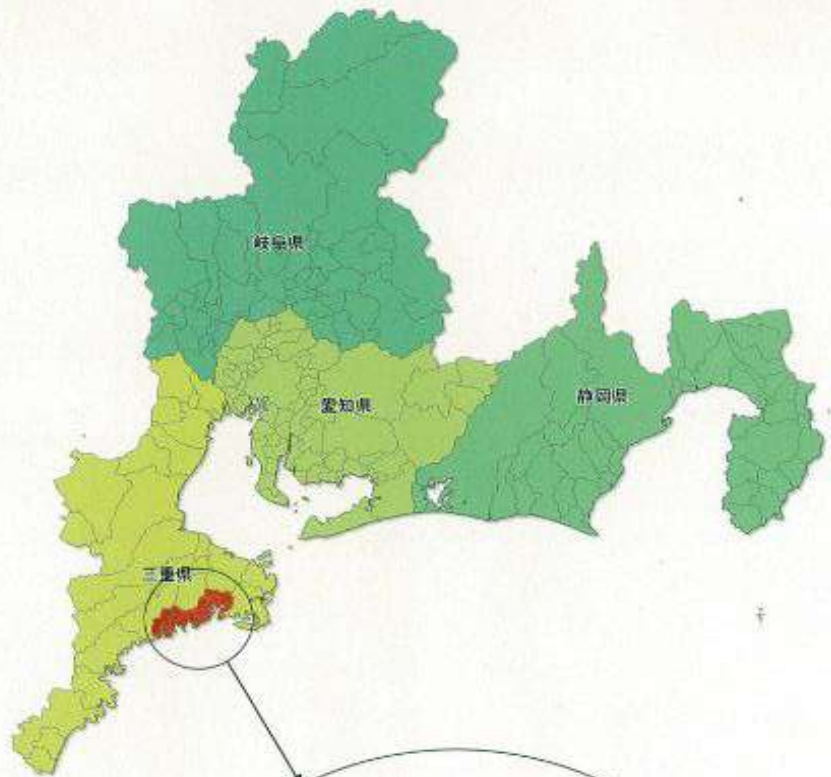
～若者移住定住に向けて革新施策を生み出すには～

南伊勢町役場 政策開発事務局

# 南伊勢町の取組みの背景

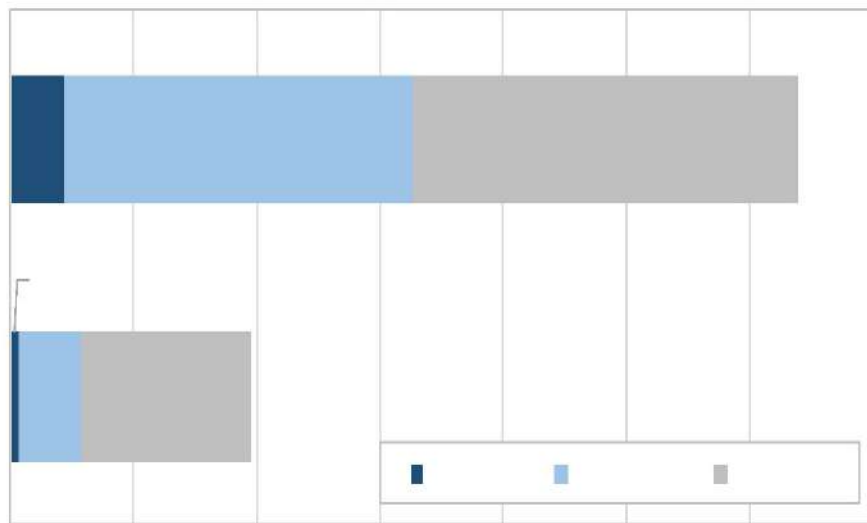
2021年8月7日自治体改善マネジメント研究会「チーム経営研究会2020」南伊勢町報告資料

# 伊勢志摩国立公園(町域の約60%) 県下一の水揚高を誇る水産業の町



# 南伊勢町総合計画「新絆プラン」策定の背景

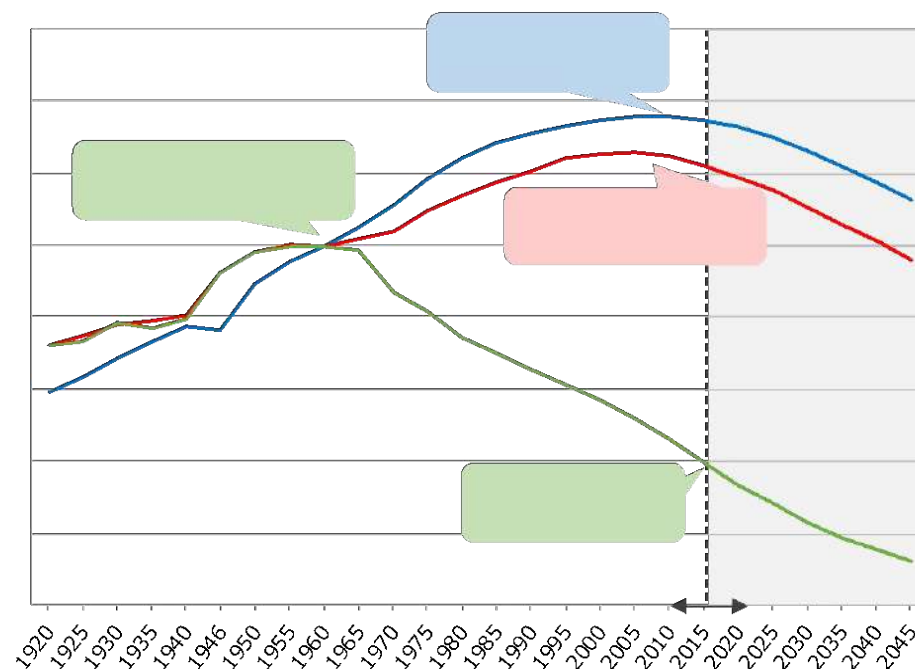
南伊勢町は、1960年をピークに人口が減り続けてきたことから、1980年代より過疎対策に取り組んできましたが、人口減少及び少子高齢化の傾向は止まらず、特に近年は急激な減少となってきています。



人口構成比と区分別人口

(国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所推計)

全国・三重県・南伊勢町の総人口の推移 (1960年を1とする)



2015年の国勢調査をもとにした将来推計人口では、30年後の2045年には人口が約70%減少し、年少人口は860人から111人になると推計されています。

# 新絆プラン「南伊勢町V字回復戦略」

10年後のあるべき姿

若者の希望を  
みんなで実現できるまち

30年後のめざす姿

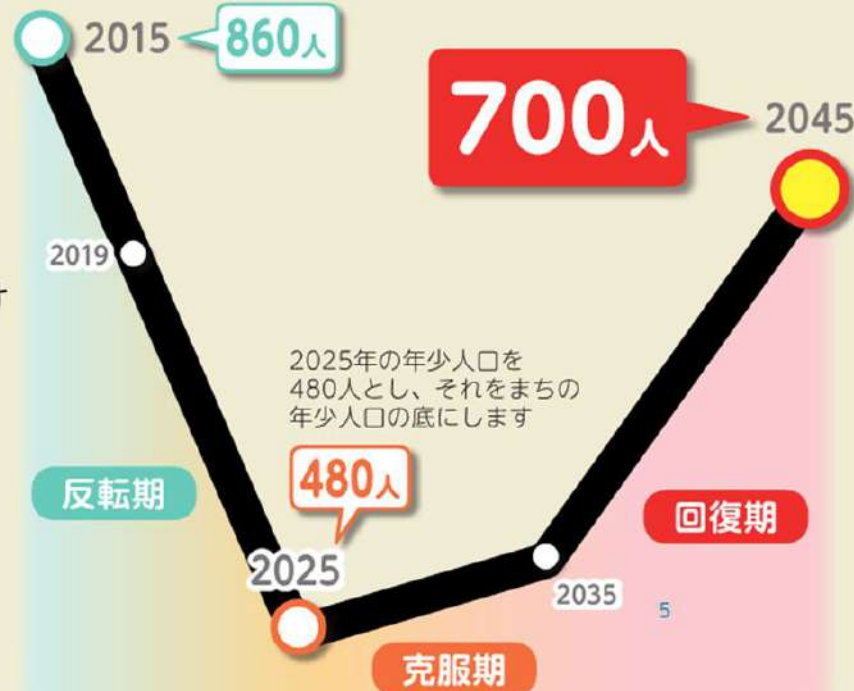
生命力みなぎる常若のまち

(0~14歳人口)  
2045年の年少人口を700人に **V字回復** させます

V字回復の鍵は  
“若者”

30年後のめざす姿の実現に向け

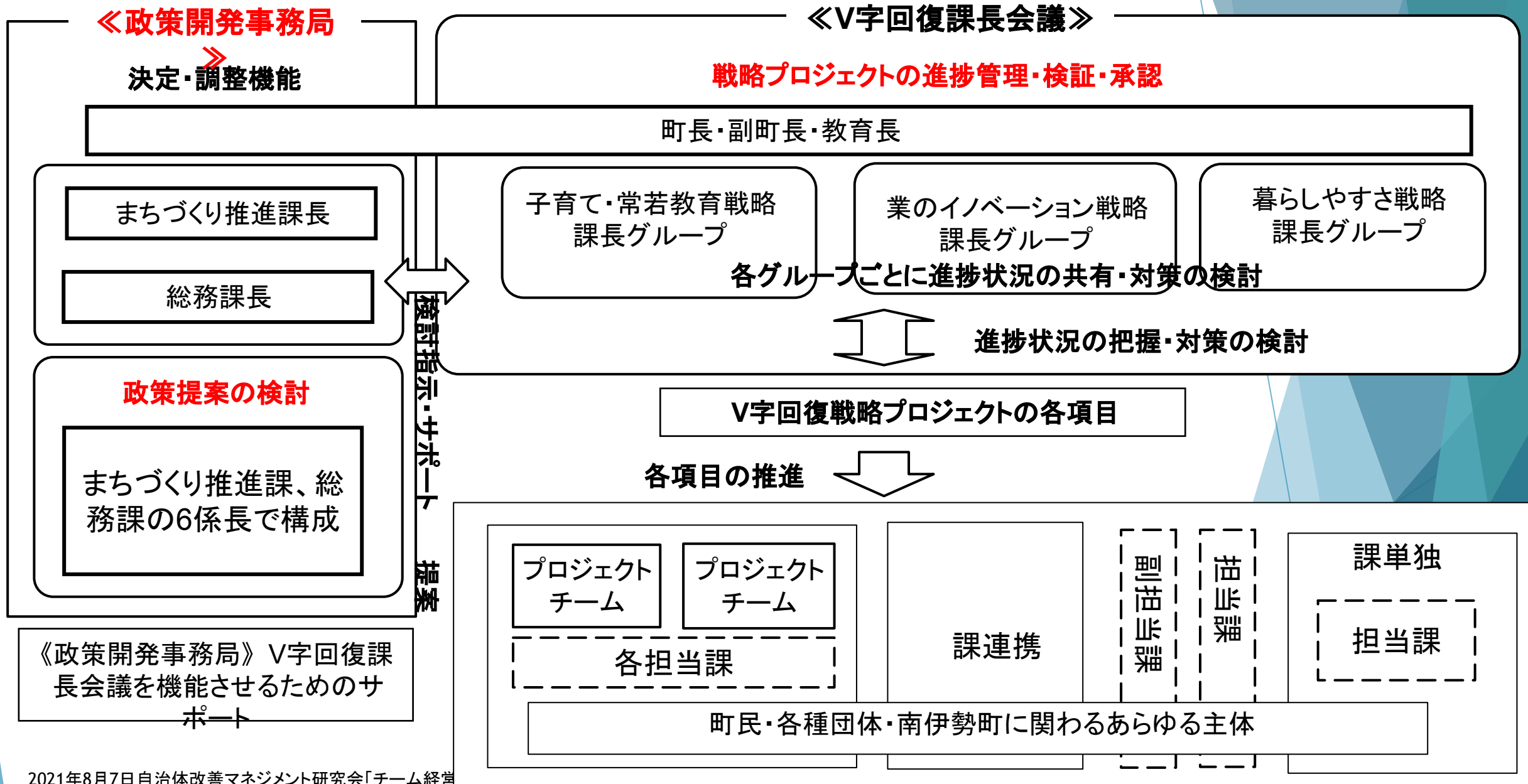
- 最初の10年を **反転期**
- 次の10年を **克服期**
- 最後の10年を **回復期**



そこで、南伊勢町では、2019年に総合計画「新絆プラン」を策定し、30年後(2045年)のめざす姿を「生命力みなぎる常若のまち」とし、「**2045年の年少人口700人**」を30年かけて実現する戦略を立てました。

また、最初の10年は反転期とし、「**2025年の年少人口を480人とし、それをまちの年少人口の底にする**」ことを目標とし様々な取り組みを進めています。

# V字回復3戦略プロジェクト実施体制図(令和2年度)



# 研究会参加の背景と目的

## 参加の背景

- 官房機能が連携し必要に応じ戦略プロジェクトチームを形成して政策を開発していくということが出来ていない。
- 組織の要となる管理部門のキーマンが部署の縦割りを超えてチームで経営の仕組みをシームレスに構築、運用することにより、中長期のビジョンと戦略の実現に向けて職員が一体感を持ち、組織力を最大限発揮できるよう経営改善をしていく必要がある。

## 目的

- 若者定住対策をテーマに模擬的にチームで体験し、発想から実行への円滑な流れと仕組みを研究し、戦略目標を達成するために必要な革新的な取組を発想し具体的な政策、施策、事業にできるようになることを目的とする。

政策開発事務局の役割

半年後のゴールイメージ

参加メンバーの目的の認識合わせから始める

# 南伊勢町にとって革新とは、どういうことか？

革新  
(イノベーション)

・・・既存の価値観に縛られることなく自由は発想で、新しい価値観とそれに基づくありかた(制度、組織、方法、習慣など)を見出し、変えていく

**戦略目標達成**

改革

・・・方針を示す立場にある地域意思決定権限を持つ人が目的や範囲を見定め指示を発したうえで、機構や制度を改め変えること

**施策のめざす姿達成**

改善

・・・施策のめざす姿や仕組み、制度はそのままで、効率や効果を高めるためやり方を改める

**事業の成果目標達成**

南伊勢町のイノベーションは、戦略目標達成のため、新しい価値観を見出しあり方を変えていく

それまでのモノ・仕組みなどに対して全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出して社会的に大きな変化を起こす



# 研究会の検討経過

- (1) 期間:2020年7月31日～2021年1月28日 6カ月間ほぼ隔週単位で全12回実施  
 時間:18:00～21:00の各3時間
- (2) 方法:すべてWEB開催
- (3) 検討テーマ表1 検討テーマ(予定と結果)

	当初の予定	実施結果
第1回	V字回復戦略の進め方のふり返り	V字回復戦略の進め方のふり返り
第2回	若者定住に必要な南伊勢町の魅力とは？	若者定住に必要な南伊勢町の魅力とは？
第3回	若者定住の成功事例分析	若者移住定住の成功事例分析
第4回	南伊勢町の若者定住のターゲットと攻略ポイント	若者移住定住の成功事例分析深掘りと町の魅力推移
第5回	町民のビジョンとMy(職員)ビジョン	南伊勢町移住若者定住のターゲットと攻略ポイント
第6回	チャレンジテーマとアタックシナリオ	南伊勢町の魅力を訴求するポイント
第7回	「どうすれば役所は変われるのか」と他自治体の革新事例分析	南伊勢町の魅力を訴求するコアコンセプト
第8回	南伊勢町の革新事例の分析と今後の課題	南伊勢町のビジョン実現シナリオ
第9回	横断プロジェクトによる変革プロセスと求められる能力	南伊勢町のビジョン実現シナリオと町民の暮らしビジョン
第10回	自分の革新体験とネットワークづくり	チャレンジ課題と自分たちのアタック作戦
第11回	研究レポート案の作成	研究レポート案の作成
第12回	研究レポートの発表とアクションプラン	研究レポートの発表とアクションプラン

# まちの魅力の検討プロセス

# 南伊勢町の魅力の推移

	1960	1970	1980	1990	2000
時代・市民生活の変化	高度成長	オイルショック	リゾート法 S62 バブル景気(S61~H3)	・ふるさと創生	・バブル崩壊 ・小泉行革・市町村合併 リーマンショック ・地球温暖化 ・IT化 ・転勤、勤務地の広域化
周辺市町の変化 ※魅力の+要因、-要因			・+スーパーの出店	・+志摩スペイン村等のリゾート進出 ・+郊外の大店の進出 ・+企業誘致 ・+サニーロード等交通環境整備	・+高速道路整備 ・-伊勢志摩への観光客減少(H6ピーク)
南伊勢町の変化 ※魅力の+要因、-要因	・-南島における遠洋漁業終了 ・-高度成長による造林の低迷(木炭不振) ・+児童生徒ピーク ・+造船業ピーク	・+真珠養殖ピーク ・+ミカン生産ピーク ・+耕作面積ピーク(南勢) ・+遠洋漁業ピーク(H50)	・+漁業養殖業への転換 ・+五ヶ所浦スーパー進出 ・+成人学級本格化(S59)	・-小売店の減少 ・-工業従事者ピーク(H2) ・-町外への通学、通勤者増 ・-環境汚染問題(下水道の整備) ・+愛洲の里、河村瑞賢 ・-原発闘争	・-保育所、学校統合 ・-汽船交通からバス交通 ・+原発撤退 ・+一漁協合併 ・+一市町村合併
各時代の南伊勢町の存在価値、ならではの魅力は何でしょうか？	一次産業のまち	みかん、真珠、遠洋漁業	伊勢志摩国立公園 みかん、養殖漁業		

# 南伊勢町の魅力の推移

	2010	2020	2030	2040
時代・市民生活の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方創生</li> <li>・情報化社会</li> <li>・東日本大震災</li> <li>・伊勢志摩サミット</li> <li>・インバウンド</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TPP発効による日本農業への影響</li> <li>・society5.0</li> <li>・大阪万博: SDGS</li> <li>・新型コロナウイルス感染症</li> <li>・森林環境譲与税</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニア新幹線による移動革命</li> <li>・ロボットの活用</li> <li>・地域間連携の促進</li> <li>・スマート自治体、圏域マネジメントの議論加速</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動運転・空飛ぶクルマ本格化</li> <li>・国の高齢者人口ピーク</li> </ul>
周辺市町の変化 ※魅力の+要因、-要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・+南伊勢町からの津波の心配のない周辺市町への転出</li> <li>・-インバウンドの影響少</li> </ul>			
南伊勢町の変化 ※魅力の+要因、-要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・-農業者漁業者の高齢化</li> <li>・-津波心配による転出</li> <li>・+SBPの活躍</li> <li>・+国道260号整備</li> <li>・+南伊勢ブランド</li> <li>・-海水温の上昇に伴う水産業の影響</li> <li>・+新しい漁業(まぐろ)</li> <li>・-獣害の影響大(森林の荒廃)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・+手つかずの自然環境の活用</li> <li>・+1ターンの、2地域居住者の増加</li> <li>・-南伊勢高校普通科の廃止? → +活用検討</li> <li>・+バイオマスなど循環型社会の創出</li> <li>・+新しい漁業(あわび・ヒロメ?)</li> <li>・+マンション、宅地分譲</li> <li>・-子どもの減少 → +子育て施策の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・-一部区の統合、廃止</li> <li>・-+集落機能の再編</li> <li>・+ICTを活用した一次産業</li> </ul>	
各時代の南伊勢町の存在価値、ならでの魅力は何でしょうか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手つかずの自然</li> <li>・ブランド産品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境の資源、農林水産資源</li> <li>・循環型社会</li> <li>・住みたい田舎</li> <li>・子育て・教育</li> </ul>		

**魅力の推移から町の将来の変化とならでの魅力を検討することが困難**

# 若者移住定住の成功事例研究

若者移住定住の成功事例を調査することにして、各メンバーが1事例ずつ、計8事例を調査した。  
成功事例の検討にあたっては人口増につながっており、革新的な取り組みがされている自治体を各自選定

0-1) 変革前の地域の状態	1-1) 地域のキーマンと特性	2-1) 初期に地域で取り組んだこと	3-1) 展開期の地域の障害と克服策	4-1) 後半に地域で取り組んだこと	5-1) 地域の成果と成功要因
0-2) 変革前の役所の状態	1-2) 役所内のキーマンと特性	2-2) 初期に役所で取り組んだこと	3-2) 展開期の役所内の障害と克服策	4-2) 後半に役所で取り組んだこと	5-2) 役所内の成果と成功要因
0-3) 変革の契機	1-3) 地域外のキーマンと特性	2-3) 初期の地域外の関わり	3-3) 情報発信とネットワークづくり	4-3) 後半の地域外の関わり	5-3) 地域外との関わり変化と成功要因

## 革新意義

### 1. 東川町(北海道)

・最大の成功ポイント: 写真写りの良い町の魅力から36年前から「写真のまち」を宣言し、時間軸の長い「文化のまちづくり」(未来の価値基準)をもとにした強みを徹底的に活かす

### ②岡山県西粟倉村

・最大の成功ポイント: 「100年の森構想」ビジョンと森に関わるローカルベンチャープロジェクト。そこに惹かれ移住する「よそ者」「若者」による一貫した取組がまちの好循環を創出

若者移住定住の成功事例研究からそれぞれの自治体は環境やターゲットとしている移住者が違うこと、さらに、そのまちならではの地域資源を生かしたまちの魅力を町民と共有できる価値をもとに長期ビジョンに掲げ、共通の価値感に基づいたターゲットを定めることが、革新的な取組みの前提として重要であることに気づいた。

# 町の魅力と移住者像

## 南伊勢町の若者移住・定住促進のためのSTP分析

### STEP1. セグメンテーション

南伊勢町に住みたくなる魅力とは？

### STEP2. ターゲティング

その魅力で移住してくる人は誰？

今住んでいるところ

年代、性別、世帯構成、職業

ライフスタイル

### STEP3. ポジショニング

競合はどこ？競合と差別化するポイントは？

**何を魅力に感じて、どんな人に、どこの市町と比較して来てもらえるのかを考え、魅力ごとに分類、整理**

町の魅力として海の恵みの豊かさを営みとする水産業と、スローライフなど風光明媚な自然や静かな海、新鮮な食べ物やきれいな空気などを活かした暮らしがあることから、「就業移住グループ」と「スローライフ移住グループ」のグループ構成を分けて更に検討

2021年8月7日自治体改善マネジメント研究会「チーム経営研究会2020」南伊勢町報告資料

表3 南伊勢町の魅力とターゲット（抜粋） 10月頃作成

就業移住	
魅力 (S)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海の恵み(魚、海藻、貝)を活かした<u>新しい水産業にチャレンジ</u>できる</li> <li>・<u>「儲かる」水産業</u>で一攫千金できる</li> <li>・最高の自然環境を活用し森林から海へつながるきれいな水の連鎖により「<u>持続可能な水関連産業</u>」の可能性がある</li> <li>・<u>水産業経営者</u>になりたい人のために専門学校が設立されている</li> <li>・<u>海を愛するライフスタイルに合った活動から地方創生につながるビジネス</u>を立ち上げられる</li> <li>・環境型社会の創出に関わる最先端の仕事ができる</li> </ul>
ターゲット (T)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>海洋産業</u>の専門知識や経験がある人</li> <li>・<u>起業家志向</u>の人(SDGSや企業内ベンチャーに興味ある人)</li> <li>・Iターンで<u>海洋産業に起業</u>する関心のある人</li> <li>・東海、関西圏(リモートワーク圏)の人</li> </ul>
ポジショニング (P)	<p>競合: 県内水産業の盛んな市(志摩市、尾鷲市)、他の地域おこしの有名自治体</p> <p>差別化: ・水温変化に応じた<u>新養殖産業の創出</u>ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康食品、美容・自然食品などの(価値のある)<u>新産業</u>が起こすことができる</li> <li>・<u>カーボンオフセット</u>につながる開発に取り組める</li> </ul>



## スローライフ移住

### 魅力 (S)

- ・ナショナルパークの大自然を満喫できる
- ・海岸(釣り場、上級サーフィン場、ヨットなど)を活かしたマリンレジャー漬けの生活ができる
- ・海・山・川・星など自然の中で遊び、子育てできる
- ・家庭菜園のできるマイホームが安価で手に入る(空き家リノベーション含む)
- ・風光明媚なリアス海岸の景色を満喫できる
- ・新鮮な食べ物、新鮮な空気で健康に過ごせる

### ターゲット (T)

- ・ネイチャーアクティビティのインストラクター
- ・環境への関心が高い人
- ・自然豊かな海に近い地域で自分なりの暮らしがしたい人
- ・自然の中で子育てをしたい都市部の子育て世代

### ポジショニング (P)

- 競合: 三重県南部地域、愛知県知多半島地域、渥美半島地域、静岡県伊豆半島
- 差別化:
- ・空気や星空がきれいで、物価の安い地域で自然の中で生活。
  - ・きれいな環境と伊勢志摩国立公園の海を生かした魅力のある仕事に挑戦できる。

ターゲット別にグループ分けをすることで魅力を具体化。後の取組みのカギとなる要素が出てきている

# 30年後のまちのめざす姿に向けたターゲット別のストーリー

成功レベル	町の状態		
	2025年 若者の希望をみんなで実現できるまち	2030年代	2040年代 生命力みなぎる常若のまち
大成功	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブルーカーボン・藻場再生から健康食品、美容・自然食品などの新産業が起きている(海洋産業)</li> <li>・水温変化に応じた新養殖産業の創出</li> <li>・<b>自然を生かした魅力のある仕事</b></li> <li>・環境を守ることが一次産業の付加価値向上につながることで町民と共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産加工団地への企業集積</li> <li>・海を活かした仕事で所得が倍増している</li> <li>・海を自然を生かした圧倒的なテーマパーク化が来ている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「俺の仕事を継げ」と自信を持って言える</li> <li>・Uターンしてと言わなくても南伊勢町に来たいと思える</li> <li>・水産業でも他産業でも生活が出来る</li> </ul>
中成功	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長い海岸線と穏やかな暮らしが楽しめる</li> <li>・自然を生かしたイベントが多く出てきている。</li> <li>・自然環境を生かした教育で人を呼び込めている。</li> </ul>	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <p><b>現実から将来像をイメージ→フォアキャスティング</b> ⇒まちのめざす姿には届かない</p> </div>	
小成功	<ul style="list-style-type: none"> <li>・澄んだ空気の中で子育てができる(喘息、アトピー)</li> <li>・南伊勢町の魅力を生かした教育が出来ている。</li> <li>・バイオマスを活かした自然共生を目的にした取り組みが進む(環境学習)</li> <li>・<b>藻場再生→ブルーカーボン</b></li> <li>・南伊勢町の自然を生かして学生が中長期的に滞在し研究活動を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>新たな産業の創出(6次化)</b></li> <li>・<b>新しい海藻の開発</b></li> <li>・<b>海域の環境回復</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>海域の環境回復→漁獲量の回復</b></li> <li>・空気がきれい、星空がきれいを維持</li> <li>・区の半数はなくなるが、その他の数地区では新しい区民構成により活気ある集落が形成されている。</li> </ul>

# 30年後のまちのめざす姿に向けたターゲット別のストーリー

「めざす姿」からの「あるべき姿」を検討→バックキャスティング

成功レベル	町の状態		
	2025年 若者の希望をみんなで実現できるまち	2030年代	2040年代 生命力みなぎる常若のまち
大成功	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブルーカーボン・藻場再生から健康食品、美容・自然食品などの新産業が起きている(海洋産業)</li> <li>・水温変化に応じた新養殖産業の創出</li> <li>・自然を生かした魅力のある仕事</li> <li>・環境を守ることが一次産業の付加価値向上につながるものが町民と共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産加工団地への企業集積</li> <li>・海を活かした仕事で所得が倍増している</li> <li>・海を自然を生かした圧倒的なテーマパーク化が来ている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「俺の仕事を継げ」と自信を持って言える</li> <li>・Uターンしてと言わなくても南伊勢町に来たいと思える</li> <li>・水産業でも他産業でも生活が出来る</li> </ul>
中成功	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立研究開発法人 増養殖研究所を上手く活用</li> <li>・森林環境整備(グリーンカーボン)を活かした新産業に取り組む(モリンガ、自伐型林業など)</li> <li>・長い海岸線と穏やかな海ならではの多彩なアクティビティが楽しめる</li> <li>・自然を生かしたイベントが多く出てきている。</li> <li>・自然環境を生かした教育で人を呼び込んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな産業を起こす人が生まれる。</li> <li>・ゼロカーボンに関する大学や企業の研究機関ができる</li> <li>・新たな産業の創出(6次化)</li> <li>・新しい海藻の開発</li> <li>・海域の環境回復</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい人がどんどんやって来る</li> <li>・今いる子どもが自分の町で仕事に就く</li> <li>・海域の環境回復→漁獲量の回復</li> </ul>
小成功	<ul style="list-style-type: none"> <li>・澄んだ空気の中で子育てができる(喘息、アトピー)</li> <li>・南伊勢町の魅力を生かした教育が来ている。</li> <li>・バイオマスを活かした自然共生を目的にした取り組みが進む(環境学習)</li> <li>・藻場再生→ブルーカーボン</li> <li>・南伊勢町の自然を生かして学生が中長期的に滞在し研究活動を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境教育が進む(修学旅行)</li> <li>・新しいアクティビティや宿泊体験施設が来ている</li> <li>・一部の地区で移住者が住み、若者が増える地区が来ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空気がきれい、星空がきれいを維持</li> <li>・区の半数はなくなるが、その他の数地区では新しい区民構成により活気ある集落が形成されている。</li> </ul>

2040年の南伊勢町の存在価値、なごではの(み)よく

伊勢志摩国此洞めざす姿 (2045)

アリアマリントン

(73071100-7タウン)南伊勢 (学園都市)

「生命がみかざる常若のまち」

人口: 年少人口 111人 → 700人  
 生産年齢人口 1,009 → 3,000人  
 高齢者人口 2,773 → 2,800人

	2025	2030	2040
大	バイオマス (ビオレゾ)	漁業者所得倍増 新たな産業の創出 ← 6次化 サバ工場をつくる	木の仕事を細々と自信を持って しつこくと言わな(こと)中伊勢(町)に未来(を)見出す 木産業(を)他産業と生活(を)つくる
中	増養殖研究所がある (上向き活用)	新たな産業におこし人(を)つくる Oカーボン → 研究所をつくる (大学)	新しいかたち(を)つくる 今(は)おもしろ(い)町(を)つくる → グリーンカーボン、モバ再生 グリーンカーボン (モリカ) → 海藻・健康食品 (価値ある) 自然食品
小	グリーンカーボン (モリカ) 空気がきれい 星空がきれい	環境教室 (修学旅行) ① 宿泊体験施設をつくる アティビティ	カーボンオフセット → 維持が向上

所得: 三重県の1人当り所得相当  
 (2015年: 町 2,106千円)  
 ( " 県 3,556千円)

不徳: < 高所得

所得 X インターネット  
 新たな価値(を)つくる  
 価値のある  
 魅力(を)つくる

海洋・環境  
 P&Aイノベーション マリタイムイノベーション

成功事例研究、ターゲットの検討、ターゲット別の成功のストーリーの検討においてメンバー内での視点の違いが顕著になっていった。

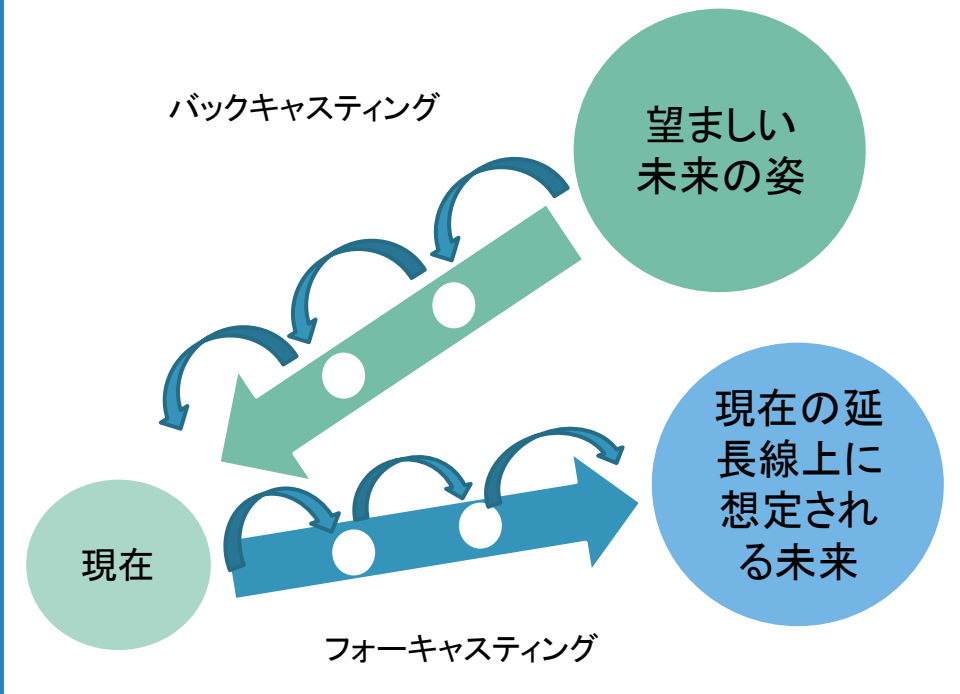
フォアキャスティングタイプ  
バックキャスティングタイプ

要因は？

職員一人ひとりの立ち位置、背景、視点の違い(現場視点、戦略視点)

⇒異なる視点の取組みをまちのビジョンの視点から合わせることで  
ワンチームのキャッチフレーズが創発

バックキャスティングの考え方



# オンリーワン、ナンバーワンのブランドコンセプトと実現シナリオの設定

# 南伊勢町のオンリーワン、ナンバーワンの魅力

多くの競合がある中で、ナンバー1の地位を確保することは難しいが、オンリー1は、唯一無二の存在であることから結果的にナンバー1でもあり、後発の競合が出て来た場合にも、先行する利点を生かしていけば、ナンバー1で居続ける可能性が高くある。

- 漁獲高は県下一高いが、全国で見た場合ナンバーワンではない。
- バイオマスを手掛けているがオンリーワンではない。
- 国立公園なら何十もある。

→移住者(ターゲット)に訴求するオンリーワンの魅力にならない。

オンリーワンは何か？ 外部支援者から何度も問いかけ？

やっと出てきた内容は

- ・ナショナルパークは8つ 海のナショナルパークは2つ(正確には3つ)
- ・でもその中で暮らせるところはないのでは？

※実際のところ海のナショナルパークは3つ。その中で暮らせるナショナルパークは大山隠岐国立公園と伊勢志摩国立公園の二つ。

「ナショナルパークで暮らせるのはオンリーワンの魅力では？」との外部支援者からの問いかけ？

ナショナルパークが外部へ訴求する一押しの魅力なのか南伊勢町メンバーは納得感を持っていなかった

2040年の南伊勢町の存在価値、なごではの(み)よく

アケアマリンタウン

伊勢志摩国造りめぐり姿 (2045)

ナショナルパーク

「生命がみかざる常若のまち」

人口: 年少人口 111人 → 700人

生産年齢人口 1,009 → 3,000人

高齢者人口 2,773 → 2,800人

3,992 → 6,500人

所得: 三重県の1人当り所得相当

(2015年: 町 2,106千円)

( " 県 3,556千円)

みよく 不便 < 高所得

所得 X インターネット

みよくは? 不便? 特約? 価値のあはれみよく

海洋・環境

PKPアイバーソン

マリナイバーソン

	2025	2030	2040
大	バイオマス (ビオレゾ)	漁業者所得倍増 新たな産業の創出 ← 6次化 サバ工場をつくる	木の仕事を細々と自信を持って しつこくと言わな(と)中伊勢町に米た(と)地 木産業(と)農業と生活がよくなる
中	増養殖研究所がある (上向き活用)	新たな産業におこし人々をまねる Oカーボン → 研究所をつくる (大学)	新しいかたちで働く 今より充実した自らの町で仕事につく → グリーンカーボン、モバ再生 グリーンカーボン (モリンガ) 海藻・健康食品 (価値ある) 自然食品
小	グリーンカーボン (モリンガ) 空気がきれい 星空がきれい	環境教室。(修学旅行) ① 宿泊体験施設をつくる。 アクトビティ	カーボンオフセット 維持が向上



# 南伊勢町のブランドとしたいもの

## 『ナショナルパークで暮らすアクアマリントウン』とは

2040年の南伊勢町の姿「生命力みなぎる常若のまち」から見た、町民と共感しうるならではの魅力を表すもの

### 「ナショナルパークで暮らす」 Only1の魅力

全国に2つしかない海のナショナルパーク、その海のナショナルパークにで暮らせるのは唯一南伊勢町だけ。この風光明媚なナショナルパークに指定されている自然の中で暮らせるということは、自慢を持って誇れる価値である。

### 「水産業での革新」→「マリンイノベーション」

南伊勢町は県内でも誇れる水産業のまちであり、その水産資源を生かしていきたいという点は皆の共通認識として持っている。

### 「豊かな海」、「海洋・環境」→「アクアイノベーション」

単に採るだけでなく、これからはブルーカーボンとして藻場を作り育て活用していきたいという思いもあり、海を豊かにすること、海洋産業を生かしていくことがこれからも町として大切にしていきたいという認識を持っている

### 「アクア」×「マリン」=「アクアマリン」 Only1やNo1になれる可能性がある

宝石のアクアマリンのイメージこそがまちの誇れる姿と合致

# ブランドコンセプト設定

## 「まちのめざすべき姿」のイメージを 「ナショナルパークで暮らすアクアマリントウン」として表現

…全国に誇れる「オンリー・ナンバー1の魅力」の設定・発信

ナショナルパークである「アクアマリントウン」に暮らせることがオンリー・ナンバーワンの魅力であると感じ、「ナショナルパークで暮らすアクアマリントウン南伊勢」というブランドコンセプトこそが30年後のまちの姿である「生命力みなぎる常若のまち」を具体的にイメージした姿であり町の現在から未来につながる価値観としてふさわしいと判断

このコンセプトを打ち出すかどうかメンバー内は消極的

「今の姿は、景色はアクアマリンのようにきれいだが、アクアイノベーション、マリノイノベーションを実現したアクアマリントウンであるとは言えない。」

→「30年後の町の姿をイメージしたもので町民とともに大切にすべき価値というのであれば提案しうる。」

アクアマリントウンの効果を最大化させるオンリー1の魅力として「ナショナルパークで暮らす」は必須という外部の意見。「ナショナルパークで暮らす」についても最初はコンセプトに消極的であった。

外部へ最大限訴求する魅力が必要ということで、外部の視点をもとにコンセプトを設定。

→オンリー1の魅力と合わすことでオンリーナンバー1の魅力実現シナリオが効果を最大化させる方向へ進む。

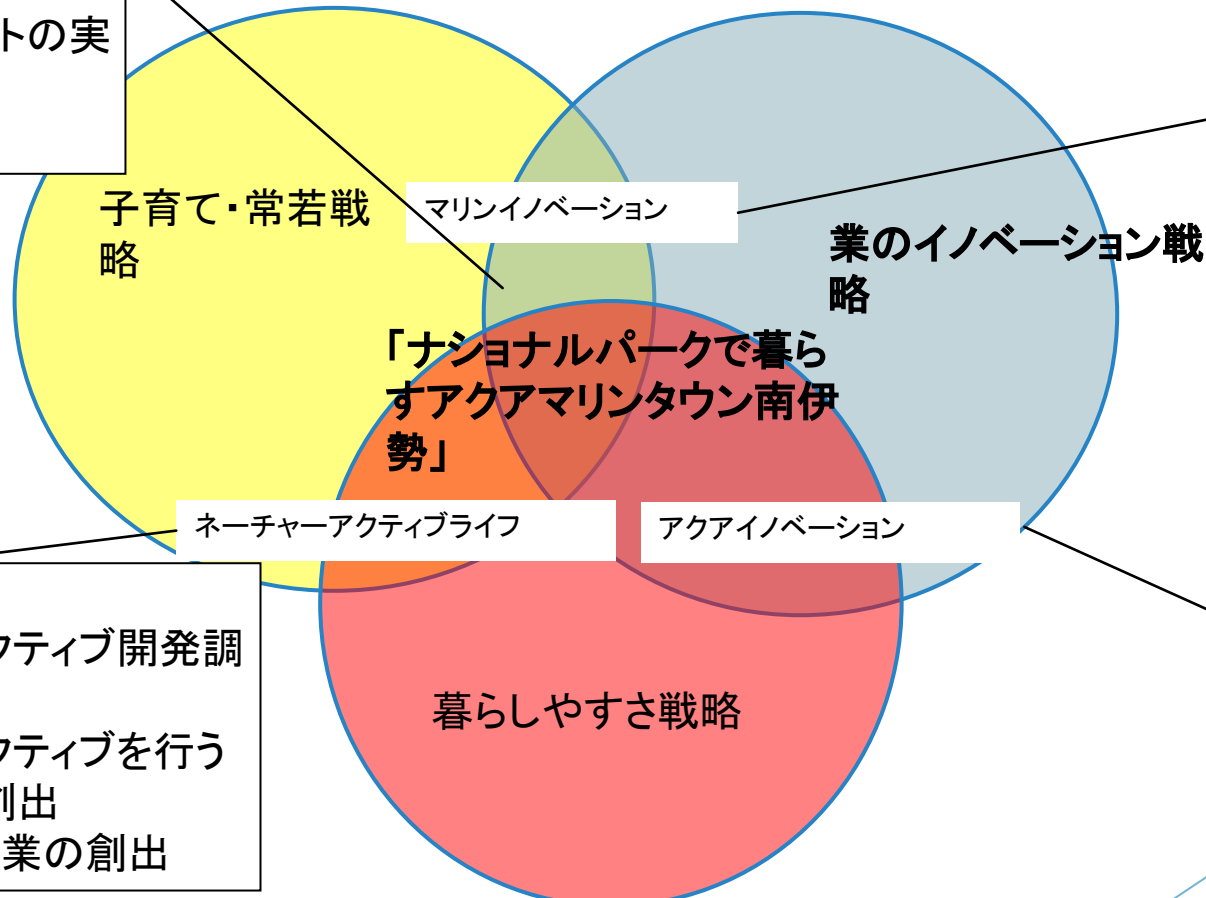
# オンリーナンバーワンの魅力を実現する10年の実現シナリオ

「オンリーナンバーワンの魅力を実現する  
アクアマリンプロジェクト」イメージ図

## 戦略連携目標:

2021年 ブランドコンセプトの設定・発信  
2025年 ブランドコンセプトの共有、タウンプライドの醸成  
2030年 ブランドコンセプトの実感

**戦略連携目標:**2021年 水産資源研究を行う学生や地域おこし協力隊(2名)  
2025年 水産業に関連したローカルベンチャー数(2企業)  
2030年 新産業会社に就職した・Uターン者数(10人)



## 戦略連携目標:

2021年 ネイチャーアクティブ開発調査他  
2025年 ネイチャーアクティブを行うローカルベンチャーの創出  
2030年 新たな海洋産業の創出

## 戦略連携目標:

2021年 グリーンカーボンを活かした耕作放棄地再生、森林整理の取り組み  
2025年 グリーンカーボンを活かした新産業開発  
2030年 新産業会社に就職した・Uターン者数(10人)

# 今後の取組み提案と現在の動き

2021年8月7日自治体改善マネジメント研究会「チーム経営研究会2020」南伊勢町報告資料

# 今後の取組み提案

チーム経営研究会メンバーである政策開発事務局としては

30年後のまちのめざす姿に向けたオンリーワン・ナンバーワンの町の魅力をもとにした

1. 年少人口をV字回復させるために共通の価値感となりうるブランドコンセプト「ナショナルパークで暮らすアクアマリントウン南伊勢」の設定
2. 共通の価値観のもと設定する戦略を横断した目標（戦略連携目標）の設定
3. オンリーワン・ナンバーワンの町の魅力を実現する「まちのめざす姿に近づける10年の実現シナリオ」の実行（庁内外等での更なる検討と肉付けを含む）

の実行が今後は必要であると結論付けるとともに、活動レポートのもと上記の実行を提案していきたいと報告する。

# 研究会後のチームの状態の変化

## ビフォー

受け身、研修姿勢、代表依存  
×政策開発に関する役割認識

## アフター

○チームでの政策提案、相互協力、一体感  
×政策実現チーム、政策反映のコーディネート

# チーム経営研究会活動を終えた各メンバーの行動宣言

【大西一史】 今回学んだ進め方、まとめ方などを今後、そういう場面で調整できるようにしていきたいと思います。

【岡本寛】 チームで考えていくために必要な調整役ができるようにしていきます。

【加藤芳一】 「ナショナルパークで暮らすアクアマリントウン南伊勢」の考えを町民全体と共有できるように環境保全への取組環境教育、環境保全と産業の付加価値に関する意識の醸成に取り組む。事業化の基本方針として「環境保全・保護」を柱に計画をしていくことを職員、町民とともに共有します。

【小山将彦】 チーム経営研究会で検討した政策実現と実行に向けた円滑な流れの実現のために調整役や働きかけができるようにしていきます。

【森本富由希】 現場で実務を担う職員と相互連携を密にし、一緒に考え、一緒に行動する協働関係を築いて目標達成を目指します。

【山本延稔】 年少人口V字回復のため、私たち6人はその役職から求められる官房機能を果たしまちをプロデュースしていきます。

# 現在の動き

- 2月 町長、副町長へ活動を報告
- 4月 町長経営方針に「ナショナルパーク内の南伊勢ならではの海の魅力を地域資源として活用し・・・新たな海洋産業を開発していく」という方針が加えられる
- 4月末 課長会議にて、チーム経営研究会における活動報告を実施
- 5月 V字回復課長会議においてブランドコンセプト「ナショナルパークで暮らすアクアマリントウン南伊勢」を設定することを決定。
- 6月 魅力ある海洋産業創出プロジェクト委員会
- 8月以降 ブランドコンセプトの発信・共有について民間とともに検討を開始予定
- 9月以降 新たな漁業の担い手対策として就業希望者の受け入れ環境調査や中間支援組織の構築に向け新たな取り組みを実施予定